

A-15 幼児の間食栄養摂取に関する一考察 (第3報——3歳児検診者の栄養)
広島文教女大短大 ○豊後孝江

目的 間食の栄養摂取に関する系統的研究の一端として、第2報において保育園児の食事摂取状況を報告した。本報では保育所・幼稚園児を除く幼児(家庭外でのきまった食事形態を持たない幼児)の食事摂取状況について実態把握を試みた。特に農山部・市近郊沿岸部・島嶼部の3地区に分けて比較検討する。

- 方法 ① 調査地区および対象、広島県豊田郡東野町・広島県安芸郡天野町
広島県山県郡加計町、3才児検診者(2~4歳)
② 調査時期および期間、昭和48年8~9月の連続した3日間
③ 調査内容および方法、食事摂取状況調査票を検診通知と同封郵送。記入式と聞き取り方式

結果 ① 摂取食品の構成は、地域差が認められ、基準パターンより高いものは動物性食品でありその他は大体低い値を示す。特に緑黄色野菜の摂取は少ない。

② 摂取栄養量の栄養所要量に対する充足率は各栄養素とも低く、対象3地区の地域差もみられた。

③ 摂取栄養量のうち間食による摂取量は多く、また個人差も大きい。熱量摂取は0から50%以上の中をもち、たんぱく質摂取は0から40%以上の中をもつ。また、間食の内容は牛乳および酸乳飲料・くだものが主体となり、回数および時間も随意であり栄養のバランスもとれていない。